

音楽科（器楽）

音楽科（器楽）について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識・技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。
- 2 習得した知識・技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。
- 3 生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。
- 4 日常生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるよう、我が国および諸外国における弦楽器、管楽器、打楽器等を用いた様々な楽曲が古典から現代にわたって、適切な分量でバランスよく取り上げられていること。
- 5 多様な音楽のよさや美しさを味わうことを通して、生徒が我が国や諸外国の音楽文化の豊かさに気づき、それらを尊重する態度を身に付けられるとともに、和楽器を含めた伝統音楽への関心を高められるよう工夫・配慮がなされていること。
- 6 生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。
- 7 系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。
- 8 表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

音楽科（器楽）

調査研究の結果の概要

■教育出版「中学器楽 音楽のおくりもの」

各教材が見開きで学びのねらい、学びのポイント、まとめの曲という３段階の構成になっており、生徒が学習の見通しを持ちやすくなるよう工夫されている。また、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な〔共通事項〕が楽曲ごとに簡潔に示され、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けやすいよう工夫されている。

楽器の写真が全体的に大きく、ギターや箏、尺八、三味線など各楽器の奏法や指、唇の位置等が生徒にとって確認しやすく、それぞれの説明が具体的でわかりやすい構成となるよう工夫されている。また、楽器の奏法の写真とその解説を読むことで、生徒が多面的・多角的に考えながら奏法を工夫できるよう構成されていることに加え、リコーダー・篠笛・尺八の管楽器の比較、ギター・箏・三味線の弦楽器の比較を通して、楽器の特徴を多面的・多角的に考察し、伝えあう活動が設定されているなど、優れた工夫がされている。

また、鑑賞領域で学習した題材である「勸進帳」「六段の調べ」などが掲載されており、鑑賞の活動で学習した内容を深めたり、鑑賞で学んだ知識を表現に生かしたりする活動が設定されているなど、鑑賞活動と表現活動の関連を図るよう工夫されている。

さらに、和楽器の篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓に関して、オリジナルの練習曲の他、わらべ歌や民謡、日本歌曲や映画音楽など、様々な楽曲が使用されていることに加え、和楽器を学習する際に、唱歌や口三味線を歌う活動が取り入れられている。また、箏の学習では五線譜と日本古来の縦書きの楽譜とを併用したり、三味線の学習では演奏方法だけでなく楽器の準備方法を示すとともに、篠笛・箏・三味線の学習で「さくらさくら」を共通教材として取り扱うことで、生徒がそれぞれの楽器の魅力を感じ、和楽器への関心を高められるよう工夫されている。

■教育芸術社「中学生の器楽」

巻頭の「中学生の器楽」では、生徒が身に付けるべき資質・能力と学習内容や教材を関連付けて示し、各教材にも学習目標や音楽を形づくっている要素である〔共通事項〕が具体的に示されているとともに、器楽分野と創作分野に関わる１年間の学びを俯瞰できるページが設けられ、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるよう優れた工夫がされている。

巻末にリコーダーの運指表、ギター・キーボードのコード表、楽器の図鑑、楽典がわかりやすくまとめられているとともに、特に使用する機会の多い打楽器については奏法が具体的に示されている。また、活動の指示と演奏の具体的な手掛かりがすべての楽器の練習曲に示されており、習得した技能をどのように生かして表現すればよいか、生徒にとってわかりやすい構成となっている。

また、鑑賞領域で学習した題材である「春」「ブルタバ」「勸進帳」「六段の調べ」などが掲載されており、鑑賞の活動で学習した内容を深めたり、鑑賞で学んだ知識を表現に生かしたりする活動が設定されていること、また、題材として取り上げている楽器については、その演奏楽曲を紹介するなど、表現領域と鑑賞領域との関連を図る工夫が優れている。

和楽器の篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓に関して、オリジナルの練習曲の他、わらべ歌や民謡、

日本歌曲や映画音楽など，様々な楽曲が使用されていることに加え，和楽器を学習する際には，唱歌や口三味線を歌う活動が取り入れられている。また，箏の楽譜は，日本古来の縦書きの楽譜が重視されており，日本の伝統を感じさせるだけでなく，生徒の伝統音楽への関心を高めるため，単に楽器の特性や奏法にとどまらず，よく響く場所など，音や音楽の持つ特徴に関する内容を取り上げるとともに，篠笛・尺八などの難易度の高い楽器は，簡単に演奏できる曲を取り上げ，成功体験を持てるようにするなど，優れた工夫がされている。

※詳細の結果・データは，観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点	教育出版	教育芸術社
1	学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識・技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること	1 指導事項(学習のめあてや振り返り活動等)と[共通事項]の適切な工夫	○	◎
		2 基礎的奏法や楽典、楽器に関する記述	○	○
		3 効果的な写真やイラスト、図、表の充実	○	◎
2	習得した知識・技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること	1 指導事項と[共通事項]の関連	○	○
		2 音楽科の特質に応じた言語活動の充実	◎	○
		3 思考力・判断力・表現力の育成に向けた工夫	○	○
3	生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること	1 主体的・対話的な学習に向けた工夫	○	○
		2 探究意欲を高める工夫	○	○
		3 発展的な学習活動につながる工夫	○	◎
4	日常生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるよう、我が国および諸外国における弦楽器、管楽器、打楽器等を用いた様々な楽曲が古典から現代にわたって、適切な分量でバランスよく取り上げられていること	1 多様な楽器・楽曲の取扱い	○	○
		2 表現領域と鑑賞領域の適切な関連	○	◎
		3 教材の難易度や分量の適切さ	○	○
5	多様な音楽のよさや美しさを味わうことを通して、生徒が我が国や諸外国の音楽文化の豊かさに気付き、それらを尊重する態度を身に付けられるとともに、和楽器を含めた伝統音楽への関心を高められるよう工夫・配慮がなされていること	1 諸外国の楽曲の取扱いの工夫	○	◎
		2 和楽器に関わる教材の充実	○	◎
6	生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること	1 人権教育の推進	○	○
		2 道徳教育の推進	○	○
7	系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること	1 題材構成の系統性・発展性	○	○
		2 他教科や教育課題等との関連	○	○
		3 他校種との接続	○	○
		4 家庭・地域との連携	○	○
8	表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること	1 文字や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさ	○	○
		2 ユニバーサルデザインの視点	○	○
		3 装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	○
		4 用紙、インク等の環境面への配慮	○	○

【音楽科（器楽）】観点別資料

【選定の観点1】

学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識・技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○各教材が見開きで学びのねらい、学びのポイント、まとめの曲という3段階の構成になっており、生徒が学習の見通しを持ちやすくなるよう工夫されている。また、表現及び鑑賞の学習において共通に必要なもの、音楽を形づくっている要素である〔共通事項〕が楽曲ごとに簡潔に示され、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けやすいよう工夫されている。 ○リコーダーはソプラノ・アルト両方での演奏が可能で、アルトリコーダーの運指がページの端に見やすく図示されるなど、生徒が基本的な奏法を身に付けやすいよう工夫されている。また、「一つの音で吹いてみよう」「左手で吹こう」「右手を加えてみよう」というようにスモールステップで構成されており、苦手意識を持った生徒に配慮されている。 ○リコーダーの運指やギターのコード表は折り込みで、楽典とともに巻末にまとめられ、コードネームについてはキーボードも示されており、生徒が実際の音を確認しやすい。また、ギターの弦を押さえる指の写真が掲載されており、基本的奏法を生徒自らが習得するためのイメージを持ちやすい。さらに、写真が全体的に大きく、ギターや箏、尺八、三味線など各楽器の奏法や指、唇の位置等が生徒にとって確認しやすく、それぞれの説明が具体的にわかりやすい構成となるよう工夫されている。	○巻頭の「中学生の器楽」では、生徒が身に付けるべき資質・能力と学習内容や教材を関連付けて示し、各教材にも学習目標や音楽を形づくっている要素である〔共通事項〕が具体的に示され、基礎的・基本的な知識・技能を習得しやすい構成となっていることに加え、器楽分野と創作分野に関わる1年間の学びを俯瞰できるページが設けられ、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるよう、優れた工夫がされている。 ○同じ楽曲をソプラノリコーダー、アルトリコーダーともに同じ運指で演奏できるような構成とすることに加え、アルトリコーダーの運指がページの端に見やすく図示され、「コラム」で演奏のコツが示されるなど、必要に応じて生徒が自分で調べることができ、主体的に学習できるよう工夫されている。 ○箏の糸の名称を省略せずに写真上に示したり、三味線のばちの同じ動きを2方向の目線で見た写真で示したりするなど、和楽器の奏法に関して生徒が学習しやすいよう配慮されていることに加え、楽器の編成が一覧にまとめられるなど、基礎的奏法の定着に向けた工夫が優れている。また、巻末にリコーダーの運指表、ギター・キーボードのコード表、楽器の図鑑、楽典がわかりやすくまとめられているとともに、特に使用する機会の多い打楽器については奏法が具体的に示されており、生徒が幅広い楽器に関する知識・技能を習得できるよう、優れた工夫がされている。

【選定の観点2】

習得した知識・技能を活用しながら，生徒が問題発見・解決的な学習，話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み，多面的・多角的に考察しながら，思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○音楽を形づくっている要素である〔共通事項〕が様々な場面で示されているとともに，〔共通事項〕を手がかりとした演奏の目標が楽曲ごとに示され，生徒が習得した知識・技能を活用しやすいよう工夫されている。 ○楽器の奏法の写真とその解説を読むことで，生徒が多面的・多角的に考えながら奏法を工夫できるよう構成されていることに加え，「何が同じで何が違う？」では，リコーダー・篠笛・尺八の管楽器の比較，ギター・箏・三味線の弦楽器の比較を通して，楽器の特徴を多面的・多角的に考察し，「話し合おう」で考察したことを伝えあう活動を設定することで，生徒が問題発見・解決的な学習の中で言語活動に取り組むことができるよう，優れた工夫がされている。 ○楽曲ごとの目標が「表現を工夫しよう」と示され，それを受けて「聴いてみよう」の活動で生徒が特徴を聴き取ったり，良さを説明したりする活動や，楽曲のフレーズの捉え方の違いによる曲の印象の違いを実際に演奏して感じ取る活動などにより，生徒が言語活動や演奏などの活動を通して，思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫されている。	○題材ごとに音楽を形づくっている要素である〔共通事項〕が示されているとともに，〔共通事項〕を手がかりとした演奏の目標が具体的に示されていることにより，生徒がそれぞれの教材で学習する内容が確認しやすく，習得した知識・技能を活用しやすいよう工夫されている。 ○「吹いてみよう」～左手の親指の力を抜いて軽やかに動かそう～など，活動の指示と演奏の具体的な手掛かりがすべての楽器の練習曲に示されており，習得した技能をどのように生かして表現すればよいか，生徒にとってわかりやすい構成となっている。また，巻頭の「アンサンブルセミナー」に掲載されている「深めよう！音楽」などのコラムでは，複数のキャラクターの吹き出しで学習を進めるにあたってのヒントが具体的に示されていることなどにより，生徒の言語活動が充実するよう工夫されている。 ○楽曲ごとに示された活動文が「～曲にふさわしい表現を工夫して演奏しましょう」「～を工夫しましょう」という表現で示されていることで，生徒が多面的・多角的に考察しながら思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫されている。

【選定の観点3】

生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○扱われている楽器全ての現役奏者のメッセージを掲載し、生徒がそこから感じたことをもとに学習を始めることができたり、「何が同じで、何が違う？」のページを使いながら、自分で考えたり話し合ったりすることで、主体的・対話的な学習を行うことができるよう工夫されている。また、巻末の「Let's try」において、学習の目標が簡潔に示されるとともに、具体的な奏法についてのヒントも書かれており、生徒がグループ活動を通して主体的・対話的な学習を行うことができるよう工夫されている。 ○同じ曲でも楽器によって唱歌が異なることを体験し、それぞれの違いや良さを比較し、体感する活動を通して、生徒の探究意欲を高めることができるよう工夫されている。 ○巻末の「Let's try」の中には難易度の高い曲も含まれており、生徒の実態に合わせて発展的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。また、リコーダーの楽譜にもコードネームが示され、ギター伴奏による学習もできるようになっており、生徒にとって発展的な学習ができるよう配慮されている。さらに、ギターの学習では、コードネームだけでなく、使う弦と指で押さえる位置が示されている「タブ譜」を使用することで、生徒が生涯にわたり音楽に親しむことができるよう工夫されている。	○複数人で演奏する際のヒントがコラム形式でイラストを交えて具体的に示されていることにより、グループ活動を通して生徒が主体的・対話的な学習を行うことができるよう工夫されている。また、「演奏のポイント」や「練習の手順」、ピアノ、箏、篠笛、和太鼓奏者からのメッセージなどが示されていて、生徒の主体的・対話的な学びをより一層深めることができるよう工夫されている。 ○「箏」のページでは、いろいろな奏法を説明文とともに手元の写真を図示し、鑑賞領域の学習と関連づけながら進めることができるような構成とすることで、生徒の探究意欲を高め、その奏法を用いた演奏に取り組みやすいよう工夫されている。 ○巻頭の「アンサンブルセミナー」に掲載されている「深めよう！音楽」のページにおいて、具体的な手順やキャラクターによるコメントが記載されていることにより、生徒が主体的・対話的な学習から発展的な学習へとつなげられるよう工夫されている。また、「アンサンブルセミナー」「アンサンブル」には難易度の高い曲や様々な編成の楽曲も含まれており、生徒の実態に合わせて発展的に取り組むことができるとともに、バンドのスコアや、ギターで使う弦と指で押さえる位置が示されている「タブ譜」、ドラムセットの演奏方法についての記述も示されており、生涯にわたり音楽に親しむ態度を育成することができるよう、優れた工夫がされている。

【選定の観点4】

日常生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるよう、我が国および諸外国における弦楽器、管楽器、打楽器等を用いた様々な楽曲が古典から現代にわたって、適切な分量でバランスよく取り上げられていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○様々な楽器に関する基礎的な奏法を学ぶ練習曲に加え、歌い継がれている日本の名曲、諸外国のクラシックからポピュラーソングまで幅広い楽曲が掲載され、生徒が様々な楽器の音色や演奏に触れることができるよう配慮されている。また、巻末の「Let's play!」「Let's try!」の中で、リコーダーや箏、篠笛、和太鼓など様々な楽器で、有名な鑑賞曲やJ-POP、映画音楽などの楽曲を演奏することにより、生徒が多様な音楽文化と豊かに関わるできるよう工夫されている。 ○鑑賞領域で学習した題材である「勸進帳」「六段の調べ」などが掲載されており、鑑賞の活動で学習した内容を深めたり、鑑賞で学んだ知識を表現に生かしたりする活動が設定されていることに加え、巻末の「名曲旋律集」では、鑑賞領域で扱われている楽曲が主にリコーダーで演奏できるように取り上げられるなど、鑑賞活動と表現活動の関連を図るよう工夫されている。 ○簡単な楽曲から、様々な編成の難易度の高いアンサンブルまで、学習進度や生徒の実態に合わせて柔軟に取り扱うことができるよう工夫されている。また、リコーダーやギター、箏、三味線など、授業で扱いやすい楽器に関しては練習曲の分量が充実している一方で、篠笛や尺八など演奏の難易度が高い楽器に関しては簡単な練習曲に絞ることにより、生徒が取り組みやすいよう、配慮されている。	○様々な楽器に関する基本的な奏法を学ぶ練習曲に加え、歌い継がれている日本の名曲、諸外国のクラシックからポピュラーソングまで幅広い楽曲が掲載され、生徒が様々な楽器の音色や演奏に触れることができるよう配慮されている。また、巻末の「楽器の図鑑」において、和楽器・諸外国の楽器・電子楽器と、古典から現代までの楽器を一覧で見ることができるページを設定することにより、生徒が様々な楽器に出会い、その音色や演奏に触れることができるよう工夫されている。 ○鑑賞領域で学習した題材である「春」「ブルタバ」「勸進帳」「六段の調べ」などが掲載されており、鑑賞の活動で学習した内容を深めたり、鑑賞で学んだ知識を表現に生かしたりする活動が設定されていること、また、すべての楽器の題材において、その楽器の演奏楽曲が紹介され、鑑賞活動も可能となる構成とすることで、表現領域と鑑賞領域の適切な関連につながるよう、優れた工夫がされている。 ○簡単な楽曲から、様々な編成の難易度の高いアンサンブルまで、学習進度や生徒の実態に合わせて柔軟に取り扱うことができるよう工夫されている。また、リコーダーやギター、箏など、授業で扱いやすい楽器に関しては練習曲の分量が充実している一方で、篠笛や尺八など演奏の難易度が高い楽器に関しては簡単な練習曲に絞ることにより、生徒が取り組みやすいよう、配慮されている。

【選定の観点5】

多様な音楽のよさや美しさを味わうことを通して、生徒が我が国や諸外国の音楽文化の豊かさに気付き、それらを尊重する態度を身に付けられるとともに、和楽器を含めた伝統音楽への関心を高められるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○フランス、イギリス、ロシア、イタリア、南米、アメリカ等の楽曲、クラシックからポピュラーソングまで、諸外国の様々な曲が幅広く扱われるとともに、和楽器と西洋の楽器だけではなく、世界の諸民族の楽器が紹介されており、楽器の背景にある文化や伝統について調べる学習を通して、生徒が多様な音楽文化のよさを味わうことができるよう工夫されている。 ○篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓に関して、オリジナルの練習曲の他、わらべ歌や民謡、日本歌曲や映画音楽など、様々な楽曲が使用されていることに加え、和楽器を学習する際に、唱歌や口三味線を歌う活動が取り入れられ、生徒が親しみや実感をもって伝統音楽に接することができるよう配慮されている。また、箏の学習では五線譜と日本古来の縦書きの楽譜とを併用したり、三味線の学習では演奏方法だけでなく楽器の準備方法を示したりするなど、初めて和楽器に接する生徒が興味・関心を持ちやすくするための工夫がされているとともに、篠笛・箏・三味線の学習で「さくらさくら」を共通教材として取り扱うことで、生徒がそれぞれの楽器の魅力を感じ、和楽器への関心を高められるよう工夫されている。	○アメリカ、ドイツ、オーストリア、スコットランド、イギリス、イタリア、チェコ、南米等の楽曲、クラシックからポピュラーソングまで、諸外国の様々な曲が幅広く扱われるとともに、「アンサンブル」において、ミュージカル音楽やJAZZなどの西洋の音楽、ラテン打楽器を使った楽曲、和楽器を使った楽曲などを幅広く学習することができ、生徒が日本だけでなく諸外国の音楽文化の豊かさに気づくことができるよう、優れた工夫がされている。 ○篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓に関して、オリジナルの練習曲の他、わらべ歌や民謡、日本歌曲や映画音楽など、様々な楽曲が使用されていることに加え、和楽器を学習する際に、唱歌や口三味線を歌う活動が取り入れられ、生徒が親しみや実感をもって伝統音楽に接することができるよう配慮されている。また、箏の楽譜は、日本古来の縦書きの楽譜が重視されており、日本の伝統を感じさせるだけでなく、五線の楽譜に対する苦手意識がある生徒にとって取り組みやすいよう工夫されている。さらに、生徒の伝統音楽への関心を高めるため、単に楽器の特性や奏法にとどまらず、よく響く場所など、音や音楽の持つ特徴に関する内容を取り上げるとともに、篠笛・尺八などの難易度の高い楽器は、簡単に演奏できる曲を取り上げ、成功体験を持てるようにするなど、優れた工夫がされている。

【選定の観点6】

生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○「吹く楽器の仲間たち」「弾く楽器の仲間たち」のコラムの中で、西欧だけでなくアジアの楽器を日本の楽器と関連付けながら学習することによって、生徒がグローバルな視点を持ち、それぞれの良さや美しさを感じることができるよう工夫されている。また、巻末の「Let's play!」の中の「音のスケッチ」での創作活動を通して、各個人の曲をみんなで演奏することができ、生徒が自分の良さや他者の良さを互いに認め、それぞれの個性を尊重する姿勢を身に付け、人権教育を推進することができるよう工夫されている。 ○神戸 21 世紀復興事業「神戸 21 世紀海響祭」のために作曲された「千の海響 望の章」を取り上げ、生徒が生命尊重や環境保全等道徳教育と関連付けて学習することができるよう工夫されている。また、巻頭の口絵「With My Heart」では、礼節を重んじ、他者を大切に、感謝する心を持つことの重要性を和楽器奏者の言葉で紹介されており、生徒が学習活動を通して、礼儀、思いやりの心を体験的に身に付けることができるよう工夫されている。	○日本及び諸外国の様々な楽器が写真で紹介され、生徒が興味深く学習することができるよう工夫されている。また、箏の学習活動内の題材「My melody」などにおける創作活動を通して、各個人の曲をみんなで演奏することができ、生徒が自分の良さや他者の良さを互いに認め、それぞれの個性を尊重する姿勢を身に付け、人権教育を推進することができるよう工夫されている。 ○和楽器の演奏にあたり、単に演奏するだけではなく、礼節を重んじ、他者を思いやる心や態度が必要であることが記述されており、生徒が学習活動を通して、礼儀、思いやりの心を体験的に身に付けることができるよう工夫されている。また、我が国の伝統的な楽器、諸外国の民族楽器の紹介も多く、伝統や文化の尊重、国際理解の視点で生徒の気づきを促し、多文化共生に関する理解を深めることができるよう工夫されている。

【選定の観点 7】

系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○リコーダーの学習では、一つの音だけでの演奏・左手だけを用いた演奏・右手も用いた演奏・裏孔にわずかな隙間をつくる運指である「サミング」を用いた演奏・音の切り方やつなぎ方のことであるアーティキュレーションを意識した演奏というように、生徒が基礎的な技能の習得に向けて段階を踏んだ学習ができるよう、適切な教材配列がされている。また、歌唱教材を扱ったり唱歌を行ったりすること、鑑賞教材の一部を演奏したり、楽器を使用して創作活動を行うことにより、歌唱・鑑賞・創作との関連を図ることができるよう工夫されている。 ○世界の諸民族の楽器の背景にある文化や伝統について調べる学習では、歴史や地理と音楽とのかかわりを手掛かりに学習を進めることができ、他教科との関連が意識されている。 ○アルトリコーダーのスモールステップによる学習は、小学校で苦手としていた生徒が取り組む際に有効である。また、小学校ですでに箏を経験した生徒のために、箏の二重奏が複数曲含まれており、小学校からの接続を意識した構成となっている。 ○和太鼓の「祭りでの太鼓演奏の例」をもとに、生徒が地元の伝統芸能について興味をもって学習することができるよう工夫されている。	○リコーダーの学習では、一つの音だけでの演奏・左手だけを用いた演奏・音の切り方やつなぎ方のことであるアーティキュレーションを意識した演奏・右手も用いた演奏・裏孔にわずかな隙間をつくる運指である「サミング」を用いた演奏・♯（シャープ）や♭（フラット）を用いた楽曲の演奏というように、生徒が基礎的な技能を段階を踏んで習得できるよう、適切な教材配列がされている。また、歌唱教材を扱ったり唱歌を行ったりすること、楽器ごとに代表的な曲を鑑賞したり鑑賞教材の一部を演奏したりすること、楽器を使用して創作活動を行うことにより、歌唱・鑑賞・創作との関連を図ることができるよう工夫されている。 ○世界の諸民族の楽器の写真が多く掲載されており、歴史や地理と音楽との関わりを手掛かりに、楽器の成り立ちや広まり方などの学習を進めることができ、他教科との関連が意識されている。 ○小学校から継続したソプラノリコーダーの学習が可能となるよう、アルトリコーダーの練習曲やアンサンブルにもソプラノリコーダーのパートがある楽曲を取り上げる配慮がされている。 ○巻末資料「楽しもう！和楽器の音楽」の中で、部活動を通して和楽器の合奏に取り組む中学生の姿が紹介されたり、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」では、郷土音楽を演奏している写真が掲載されており、生徒が地元の伝統芸能について興味をもち、身近に感じたり愛着を持つことにつながるよう工夫されている。

【選定の観点 8】

表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名	
1 7 教出	2 7 教芸
○A4変型判が採用され、必要な情報を見やすく掲載するとともに、目次は楽器ごとにまとめて色分けされ、インデックスが効果的に用いられるなど、生徒が使いやすく見やすいよう工夫されている。また、ギターや和楽器は、写真の大きさ、角度とも、弦と指の動きが見渡せ、わかりやすい。 ○生徒の特性に応じて判別しやすい配色であるカラーユニバーサルデザインや、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォント（UD書体）が使用され、生徒が学びやすいよう工夫されている。 ○製本は堅牢で、長期間の使用に耐えられるよう工夫されている。 ○環境に配慮した再生紙・植物油インキが使用されている。	○全体的に楽譜と余白と文字の大きさのバランスが良く、楽譜が見やすい。また、目次は楽器ごとに色分けされ、フォントのメリハリもつけられており、一目見てわかりやすい。さらに、練習曲を含む全ての楽曲の1曲ごとにページ数が表記され、生徒が探しやすいよう工夫されている。 ○色覚の専門家から助言を得て、学習に必要な情報が色の違いのみに依存しないような配色や、生徒の色覚特性に配慮した配色がなされるとともに、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォント（UD書体）が使用され、生徒が学びやすいよう工夫されている。 ○製本は堅牢で、開きがよく、耐久性に優れた製本とするなど、長期間の使用に耐えられるよう工夫されている。 ○環境に配慮した再生紙・植物油インキが使用されている。